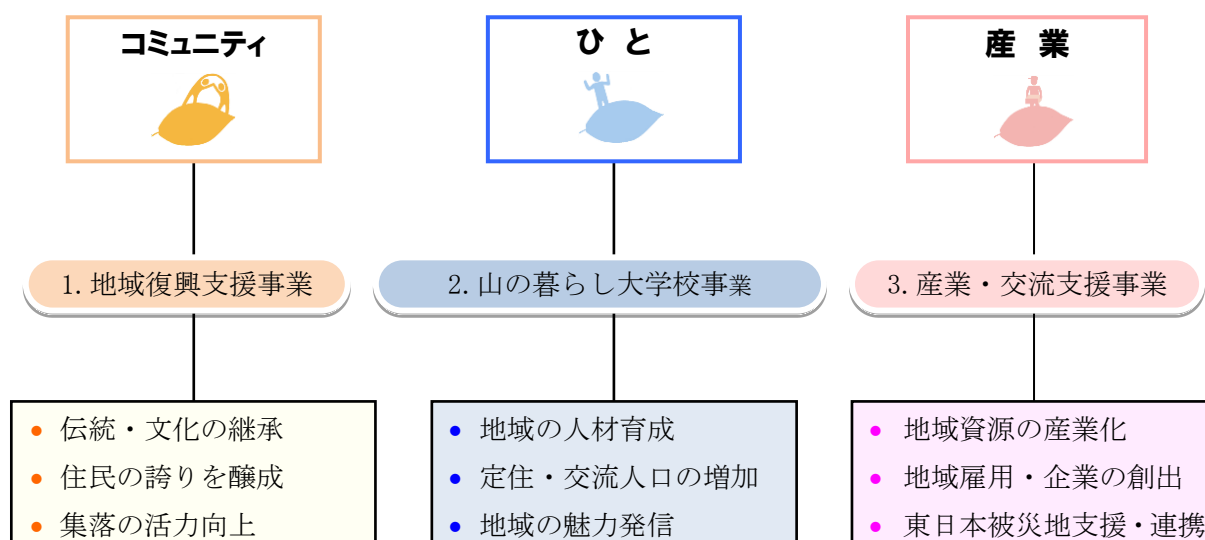


平成26年度 事業報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

「中山間地域再生への創造的な取組みを通じ、持続可能な中山間地域の形成を目指す」という基本理念に基づいて、住民主体による集落経営の実現に向けた「コミュニティ（集落）」、「ひと」、「産業」の三要素を育成するために、『地域復興支援事業』、『山の暮らし大学校事業』、『産業・交流支援事業』を主要事業として取り組んだ。



中山間地域再生への創造的な取組みを通じ、地域住民が主体となって取り組む活動を地域復興支援員が後押し（支援）してきた。

震災から10年が経過し、これらから先10年間の中山間地域の持続可能な地域づくりの方向性について、長岡市が長岡市復興推進地域づくり委員会を組織し、検討を重ね、（当財団も理事長がメンバーとして参加注1）地域課題については支所、地域づくり経営組織（地域NPO）、LIMOの3者で共有し、地域内の連携体制を構築した中で、地域規模や活動の形態により合致した「身の丈に合った地域づくり」を行うことが確認された。

注1:長岡市復興推進地域づくり委員会は平成25年12月24日から平成26年8月25日まで全8回開催された。

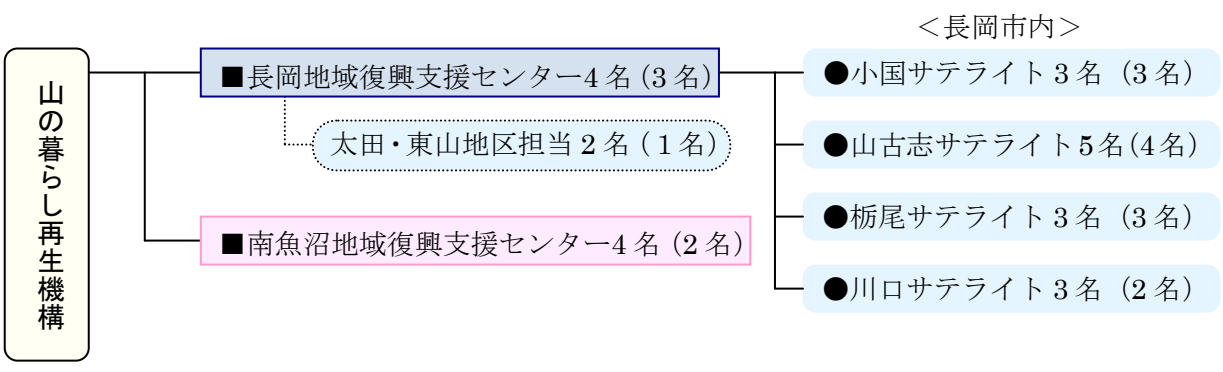
1 地域復興支援事業

コミュニティづくり ～地域を支える集落機能の強化～

中越地震で大きな被害を受けた中山間地域の復興を確実に進めるため、外部の人材が地域に入って住民と一緒に復興の支援活動を行う(公財)新潟県中越大震災復興基金事業の地域復興支援員制度として平成20年度から開始された。

当財団では、中越地震で被災した中越地区の再生・復興のために、長岡市(旧市町村地域にサテライト4か所)、南魚沼市に復興支援センターを設置して、地域復興支援員が地域活性化に向けた住民主体の活動を支援した。

◆地域復興支援員設置状況



定数 24 名 (カッコは配置実数 : 18 名)
【※配置実数は H27. 3. 31 現在】

中越大震災復興基金の「地域復興支援事業」は、当初、平成24年度までのメニューであったが、2年間延長となり、今後の活動内容については集落、住民支援に基礎を置きながら、地域の自立的復興支援に重点を置くよう求められた。

これらを踏まえ、制度延長の最終年度を見据えた中で自立に向けた意識の醸成等を図りながら、復興の完成を目指した。また、基金メニューの地域資源活用・連携支援、地域経営実施支援を活用できる団体を積極的に支援し、地域の自立的復興を目指した。

H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
★ 中越地震発生			● LIMO 設立	中越大震災復興基金事業期間 (10 年間)							
				復興支援事業 5 年間					2 年間延長		再延長

※地域復興支援員設置支援については運用益を財源に平成29年度までの延長が決定。

1 集落活動支援事業

- ・集落活動の事業化支援
- ・次世代の担い手育成支援
- ・震災 10 周年に合わせた関連事業の実施支援

2 地域自治支援事業

- ・地域コミュニティ構築支援（運営支援含む）
- ・地域内外の活動団体との連携体制づくり支援

3 地域経営支援事業

- ・地域づくり団体（総合型 NPO、コミュニティセンター等）の設立、運営支援
- ・支所、地域づくり団体との連携体制構築支援

◆主な支援活動

長岡地域復興支援センター	① 各拠点における地域復興支援員相互の情報共有 ② 東日本被災地支援、中心市街地での販路拡大支援 ③ LIMO 通信や WEB サイトによる情報発信
太田・東山地区	① 太田地区復興活性化会議の活動支援 ② 山通り地区活動支援
小国サテライト	① 集落と近隣大学との地域活動体制の構築支援 ② 長期インターンシップの受け入れ支援 ③ 地域 NPO 等と連携した地域資源の活用支援
栃尾サテライト	① インターン生の受け入れに関する地域住民の育成支援 ② 「かりやだ交流会」の運営支援 ③ 地域づくりを担う若手組織の立ち上げ及び運営支援
山古志サテライト	① 地域住民と協働した首都圏大学との連携支援 ② ツーリズム事業を通じた地域資源の開発支援 ③ 地域資源を活用した新たな起業支援
川口サテライト	① 集落と連携した震災 10 周年関連事業の実施支援 ② 友好都市と連携した首都圏への販売ルート拡大支援 ③ イベントを通じた事業経営支援
南魚沼地域復興支援センター	① 市内 12 地区の地域づくり協議会への活動支援 ② 協議会や集落が主催するイベントの運営支援

【各センター・サテライトの実績紹介は別添資料を参照】

2 山の暮らし大学校事業

人づくり ～地域を活性化する人材育成と交流促進

「都市と中山間地域に暮らす人たちが共に学ぶ」をコンセプトに、「自然と共に暮らす知恵」を教材にした「学び・体験」の機会を提供し、こどもから大人まで里山を活性化するための人材を育成する事業を開催した。



「山の暮らし大学校」で東日本被災地に送る新米を詰める谷村さんと、シンガーソングライターの詩織さん（H26. 11. 15 山古志）



「中越防災研修講座」で中越地震からの復興への取り組みを研修する長岡市職員（H27.2.16 震災アーカイブセンターきおくみらい）

■事業実績

<p>(1) 谷村新司さんと共に学ぶ林間学校</p>	<p>「フラッグアーティスト」に就任いただいている音楽家の谷村新司さんが参加して、「衣・食・住」と「音」の融合をコンセプトに、地域の文化に触れながら中山間地域住民と都市住民が交流した。（与板地域、和島地域、三島地域、山古志地域を会場として開催）</p> <p>また、中越地震からの復興過程や現況を山古志地域住民が発表することで、参加者との意識共有を図り中越地震の風化防止に寄与した。（その他、山古志地域の新米を参加者が袋詰めを行い、60kgを東日本被災地の関係団体へ寄贈した）</p>
	<p>【実施日】平成26年11月14日（金）～15日（土）</p> <p>【参加者数】14日：40名（首都圏40名） 15日：60名（首都圏40名、市内20名）</p> <p>【実施場所】14日：与板地域、和島地域、三島地域 15日：山古志地域</p>
<p>(2) 地域・集落自主交流プログラ</p>	<p>小国グリーンツーリズム推進協議会と事業を共催し、「雪」という資源を首都に運び、中山間地域の魅力を発信した。</p>

<p>△支援事業</p>	<p>【実施日】平成27年3月8（日） 【実施場所】東京都武蔵野市境冒険遊び場公園 【参加者数】19名（小国地域から） 【来場者数】450名</p>
<p>(3) 東日本大震災被災地交流セミナー事業</p>	<p>①災害経験の無い自治体（会津若松市）に、中越地震を経験した「長岡だからできる」発災直後の混乱を伝え、災害に備える研修を実施した。 【実施日】平成26年11月25日（火） 【実施場所】会津若松市役所 【参加者数】46名（会津若松市役所職員）</p> <p>②中越大震災後に入庁した職員を対象に、震災後の混乱や震災対応の実務を伝え、起こりうる災害に対しての心構えと組織横断的に対応する必要がある旨の研修を行った。 【実施日】平成27年2月16日（月） 【実施場所】震災アーカイブセンターきおくみらい 【参加者数】71名（長岡市役所職員）</p> <p>①、②ともに長岡市、（公社）中越防災安全推進機構、（一社）減災・復興支援機構、（公財）山の暮らし再生機構の共催事業</p>

3 産業・交流支援事業



産業づくり

～地域を豊かにする産業創出と地域連携～

震災からの復興に向け、被災地域に蓄えられた資源を都市農村交流や物販等の経済活動につなげるため、農作物・加工品販路の拡大支援及び交流人口の獲得支援を行うとともに、中越地震の風化防止に取り組む事業を実施した。



越後長岡 暮らし文化の祭典にて山古志地域住民が地元食材を使った物産を販売 (H26.10.18 アオーレ長岡)



自立活性化優良事例として総務大臣賞を受賞した十日町市の「あいポート仙田」にて、担い手の育成と地域課題の解決について学ぶ (H26.11.21 十日町市仙田地域)

■事業実績

<p>(1) 地域資源活用促進事業</p>	<p>① センター・サテライト設置地域における集落住民の魅力ある活動紹介を行うため、(一社)長岡観光コンベンション協会が主催するホコ天への参加を地域住民に呼びかけ、出店機会の創出と持続可能な販売を行う検討・支援を行った。</p> <p>【販売場所】アオーレ長岡</p> <p>【実施日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 5月5日 (月・祝) : ちやざわ生産組合 (小国地域) 大手通1・2丁目の車道及び歩道 : 売上 42,700 円 ◆ 8月2日 (土) ~ 3日 (日) : 大槌湾ほたて養殖組合 アオーレ長岡 : 売上 455,000 円 ◆ 10月18日 (土) : やまこしフェア特産品開発部会 アオーレ長岡 : 売上 75,000 円
	<p>② 地域の活動団体が地域資源を活用した弁当などの地域特産品の販売を促進し、市内の地域間交流を深め、地域の活性化を図ることを目的として、移動販売車を借上げ、市民活動団体に無償貸与するモデル事業を実施した。</p> <p>【実施団体】おぐに結城野の会</p> <p>【販売場所】アオーレ長岡他</p> <p>【実施日】4月1日～12月11日まで (255日間)</p>

	【売 上】 1,837,460 円
(2) 震災メモリアル 拠点施設活用促 進事業	<p>震災メモリアル施設を活用した視察・研修プログラムを東日本大震災被災地や、今後ニーズが高まると考えられる団体へ提案した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまこし復興交流館「おらたる」において山古志地域の復興過程を学ぶ ・錦鯉、闘牛アパート等の被災後に復活を遂げている伝統産業の視察 ・地域住民の活動（木籠集落）の視察 <p>【実施日】 平成26年8月4日（月） 【対象団体】（一社）おらが大槌夢広場（4名） 【実施場所】 やまこし復興交流館おらたる</p>
(3) 「地域の担い手」 確保支援事業	<p>地域の持続に不可欠な担い手を確保するための「インターンシップ受け入れ」などに必要なノウハウを学ぶ機会を設定し、地域の担い手確保に向けた体制づくりを強化した。</p> <p>◆第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進事例として、小国地域の農事組合法人の経営方針や活動の取組みを受講し、参加者同志が意見交換を行い課題の解決方法について議論した。 <p>桐沢担い手生産組合 青柳組合長 森光担い手生産組合 小島組合員</p> <p>【実施日】 6月30日（月） 【実施場所】 山古志地内 【参加者数】 13名（山古志、蓬平、栃尾、川口）</p> <p>◆第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担い手は自らが育成していく」という観点から、三重県いなべ市で取り組んでいる高齢者の「元気づくりシステム」の事例を受講した。 <p>（一社）元気なまち協創日本 浜田代表理事</p> <p>【実施日】 7月11日（月） 【実施場所】 小国地内 【参加者数】 13名（山古志、蓬平、栃尾、川口）</p> <p>◆第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住定住と地域づくり、農山村の担い手を考えるという題目にて、首都圏における最新情報を受講した。 <p>NPO ふるさと回帰支援センター 嵩副事務局長</p> <p>【実施日】 11月21日（月） 【実施場所】 十日町市中仙田地域</p>

	<p>【参加者数】 15名（小国、蓬平、山古志）</p>
<p>(4)「地域の起業家」 育成支援事業</p>	<p>「地域の生業づくり」や「移住・定住者の受け入れ」につながる起業に向けての活動を支援した。</p> <p>【実施者】小国地域のインターン生(福島県出身 20代男性)</p> <p>【内 容】小国地域で生産される各種商品をパッケージ化し、地域の特色を出したトートバックを作成しセット販売を行った。</p> <p>【実施日】平成26年10月4日(土)米百俵まつり</p> <p>【実施場所】長岡市大手通</p> <p>【販売額】47,000円</p> <p>※事業実施主体となったインターン生は、期間終了後、小国地域の生産組合に就農・移住した。</p> <p>川口地域住民が主体となって「ジビエ」を活用した地域おこしの気運が高まっていることから、首都圏から専門講師を招き、生業や起業に向けた課題とその解決方法や、販路確保に向けた研修を実施した。</p> <p>【実施日】3月31日(月)</p> <p>【実施場所】ファーム越後川口</p> <p>【参加者数】12名</p> <p>【講 師】株式会社ブーシェリー 神谷代表取締役 (ジビエ料理の専門講師)</p>

東日本大震災の震災がれきを受け入れた事をきっかけに行われている長岡市と大槌町の民間交流を推進し、大槌町の復興の一助となる事を目的に被災地間交流及び復興支援活動を民間活動団体ベースで実施した。



大槌町の復興情報を学び、共有する山古志地域住民(H26.9.20 岩手県・大槌町)



山古志の復興を学び、地域住民と交流する大槌町出身の学生(H26.11.3 山古志地内)

■事業実績

(1) 東日本大震災被災地の次世代を担う若者との交流	山古志地内で地域活動を行う若手地域住民が大槌町地内で開催される地域イベントに参加することで、郷土愛の確認と培ってきた交友関係の強化を図った。
	【実施日】平成26年9月20日(土)～21日(日) 【実施場所】岩手県大槌町地内 【参加者数】10名(山古志地域の若手地域住民)
	東日本大震災被災地の復興を担っていく若者を山古志地域に招致し、復興の過程を学び「時間はかかっても復興は遂げる」という想いを共有することで人材の育成を図った。
	【実施日】平成26年11月2日(土)～3日(日) 【実施場所】山古志地内 【参加者数】7名(大槌町出身の高校生及び大学生)
(2) ふるさとの活性化を目指した民間交流	①大槌町の芸能団体「風虎会」を山古志地域に招致し、古志の火まつりに参加し、「ふるさと愛」の想いを共有した。また伝統の点火式に大槌町から新成人が参加し、山古志地域の新成人同志の友好を深めた。 ②大槌高校の生徒を招致し、山古志地域の復興過程を学び、将来の「復興まちづくり」に関する想いを共有した。
	【実施日】平成27年3月7日(土)～8日(日) 【実施場所】やまこし地内 【参加者数】39名(風虎会21名、大槌高校生18名：教諭)

	3名含む)
(3) 東日本大震災 被災地の風化 防止支援	<p>当財団の東日本大震災被災地支援のカウンターパートナーとなっている団体 (@リアス NPO サポートセンター) が実施する「復興カメラ写真展」の長岡市内実施を支援し風化防止を促進した。</p> <p>①【実施日】平成26年10月18日(土) 【実施場所】アオーレ長岡アリーナ 【参加者数】800人 ※新潟日報社、中越防災安全推進機構、長岡市との共催で開催した中越地震復興10周年復興祈念フォーラムの中で復興カメラ写真展を実施。</p> <p>②【実施日】平成26年10月2日(木)～24日(金) 【実施場所】(一社)長岡観光コンベンション協会</p> <p>③【実施日】平成26年10月18日(土)～24日(金) 【実施場所】アオーレ長岡ホワイエ</p> <p>④【実施日】平成27年3月7日(土) 【実施場所】古志の火まつり特設会場(あまやち会館前)</p>

公益財団法人 山の暮らし再生機構

〒940-0062 長岡市大手通 1-4-11

電話 : 0258-30-1213 F A X : 0258-30-1205